



スマホ (SNS) と青少年トラブル



昨年10月末、神奈川県座間市のアパートで9人の切断遺体が見つかりました。容疑者と被害者の接点は「SNS」。短文投稿サイト「Twitter (ツイッター)」で自殺願望の書き込みをした10~20代の若者に近づき、直接会い、殺害したという事件です。SNSによる繋がりが及ぼした事件ということで、世間に大きな衝撃を与えました。SNSのメリットというと、

- ・流行りやニュースをいち早く取り入れることができる
- ・同じ趣味やスポーツ等の様々な共通点から交流関係を作られる

といったものが挙げられます。若者たちの生活には欠かせないツールとなっているSNSですが、その手軽さが悪質な利用につながり、青少年を取り巻く深刻な問題のひとつとされているのです。

SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)

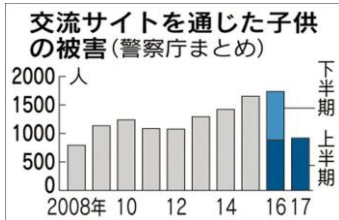
→ネット上で人と人のつながりや交流を楽しむ
コミュニティ型の会員制サービス

交流系 SNS
(例) Facebook, Twitter

動画系 SNS
(例) YouTube

写真系 SNS
(例) Instagram

メッセージ系 SNS
(例) LINE



警察庁の報告によると、SNSによる被害児童数は2016年に1736人と過去最高を更新し、2017年上半期(1~6月)は919人に上り前年同期より30人多い状況です。犯罪内容は「性被害」が目立ち、児童買春や児童ポルノ(裸の写真を送らせる等)の被害事例が近年急増しています。被害のきっかけとなったサイトについては「Twitter」が最も多いとされています。

様々な情報が子どもたちの周りを飛び交う中、日々様子や会話から子どもたちの変化に気づくことが被害の抑制につながります。以下、SNSトラブルの事例とネットから青少年を守るポイントを紹介します。

事例	ワンポイントアドバイス
① SNS やネットで知り合った人による性犯罪被害 SNS ではいい人だったのに…実際に会うと恐い人だった	☞ 『話が合う≠信用できる』 投稿内容の過信は危険だと再確認させましょう。
② 無料通話アプリなどでの悪口や仲間外れ 書き込み内容で誤解を招いた…グループから外された	☞ 誤解や感情の行き違いが生じやすいグループトーク。 会話の流れを読み取り、「空気を読む」ことも必要です。
③ SNS などへの投稿内容から個人が特定 写真を投稿すると…付きまといを受けるようになった	☞ 写真に写る建物や地域の行事でも生活範囲は憶測できます。 投稿する前に写っているものを確認しましょう。
④ コミュニティサイト等を使った未成年によるアプローチ 異性交際を目的に書き込んで…警察に補導されてしまった	☞ 危険な書き込みは、出会い系サイトからSNSへとシフト。 自分の身が危うくなることを意識させ、良識ある行動を促しましょう。

参考資料：総務省 インターネットトラブル事例集(平成29年度版)

「減らそう犯罪!! 万引き防止キャンペーン」に出席しました (H29.11.5)



生徒代表(幸千中学校生徒)による宣言文と、市内の中学生による万引き防止標語を紹介します。

賞	標語	学校・学年
最優秀	「ウシロ」には「メ」があるぞ「タイ」捕だぞ!	幸千中 2年
優秀	ちょっとだけ 甘い誘惑 絶つ勇氣	幸千中 2年
	1度だけ そんな心が 気のゆるみ	芦田中 2年
	ちょっと待て 盗みは一瞬 罪一生	駅家中 1年
	一時の誘惑 一生の後悔	駅家南中 2年
	やめようよ 自分の未来を 壊すのは	神石高原中 3年

「万引き」は誰が迷惑を被るのでしょうか。被害を受けたお店の人だけでなく、万引きをした「自分自身も」なのではないでしょうか。支えてくれる人を悲しませ、周りの信用を失い、罪悪感や後悔をずっと引きずって生きていかなければなりません。

私たち中学生は将来の夢に向かって歩んでいます。着実に歩を進めていくためにも、一時の誘惑に負けず、自分の進むべき道を見据えながら、充実した日々を過ごしていきたいです。(一部省略)

指導員の窓



本年度の「センターだより」も今号が最後ということもあり、この1年間を補導状況を中心に振り返ってみたいと思います。

2月末までの補導件数は408件で、昨年度対比では85件もの減少となっています。これは、中学校や高等学校の生徒指導の充実や目的意識を持たせる進路指導の充実など、子どもたちの規範意識の高まりとともに、遅刻者の減少や、怠学、喫煙の減少につながっているのではないかと思います。しかし、遅刻や怠学をする生徒の中には家庭の問題や友人関係で悩みを持ち、それを誰にも相談できずに、スマートフォンのSNSを通じて、相手のことがよくわからないながらも集団でいることの安心感を求めて集まり、学校に行かず、ゲームセンターや商業施設などで、時間をつぶしたりという行為になっているのかもわかりません。

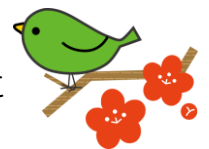
私たち指導員は、福山駅や商業施設、時には学校近くでそういう生徒に出会います。そして、必ず声をかけます。遅刻者と出会うことの多い福山駅では時間が限られていますが、遅刻の背景にあるものは何かということができる限り丁寧に共感する姿勢で聞きます。また、商業施設や学校付近で出会う生徒には、心を開いてできる限りその子どもたちの視線で話をするようにしています。最初は警戒心を持ちなかなか心を開いてくれなかった子どもたちも、何度か話しかけていくうちに、話ができるようになり、会話するようになってきます。この子どもたちの『無視されるのは本当は嫌だ。誰かと話がしたい、誰かと繋がっていたい』という本音が聞こえてくるような気がします。私たち指導員は、この子どもたちの心の声を大切にしながら今日もまた福山駅前に立っています。（瀬尾）

中央青少年育成員のコーナー

「中育協」は、2012年に名称が変わり、補導のみならず、子どもたちを見守り、寄り添いながら育てる活動に重点がおかれています。私自身、活動の第一歩は「声かけ」だと思っていますが、街頭補導活動では、声をかけるタイミング、どんな「声かけ」をしたらと戸惑うことが多くあります。

私の学区でも、挨拶運動が行われていますが、「挨拶をしない・声が小さい」とかいろいろな声を聞きます。しかし、毎朝通学時にボランティアで「挨拶運動」「交通安全指導」をしている方は、子どもたちと顔見知りになり、自然な声でしかも一言添えて声かけをすると話されます。学校帰りに会い「お帰り」と言うと、「ただいま」とニコッとすることも。今日、子どもを取り巻く環境は厳しく変化している中でありながら、このような地道な活動により、子どもたちも地域で大事にされていると実感が持てるようになるのではないかと感じています。

私も育成員として地域のボランティアの皆さんの活動に積極的に参加し、育成活動に取り組みなければと痛感している毎日です。（光成）



～編集後記～



我が家では、この春から高校生になる娘が携帯電話を初めて持つ予定です。学校のクラブ内での連絡をSNS等で取らなくてはいけないというのが理由です。そこで、子どもと一緒に家庭のルールを作ろうと思っています。例えば、名前、顔写真、学校名などは書き込まない、利用する場所や時間帯を決めるなど、子どもも親も納得した上で購入する予定です。子どもだけでなく私たち大人も適切な使い方を今一度確認したいと思います。（岡崎）